

大磯町の環境施策の現状紹介

1. 大磯町の環境施策の流れ
2. 大磯町環境基本計画 5つの基本目標
3. 基本目標 1・2
4. 住宅用スマートエネルギー設備導入費補助金
5. 公共施設の省エネ及び再エネ
6. 大磯町の地勢
7. コミュニティによる水辺と緑地の保全、活用
8. 町事業によるきっかけづくり 1
9. 町事業によるきっかけづくり 2
10. 住民主体の取り組み
11. 「課題解決」から「新たな価値の創造」へ
12. 住民主体の取り組みへの支援
13. まちづくりの視点

R7.8.3

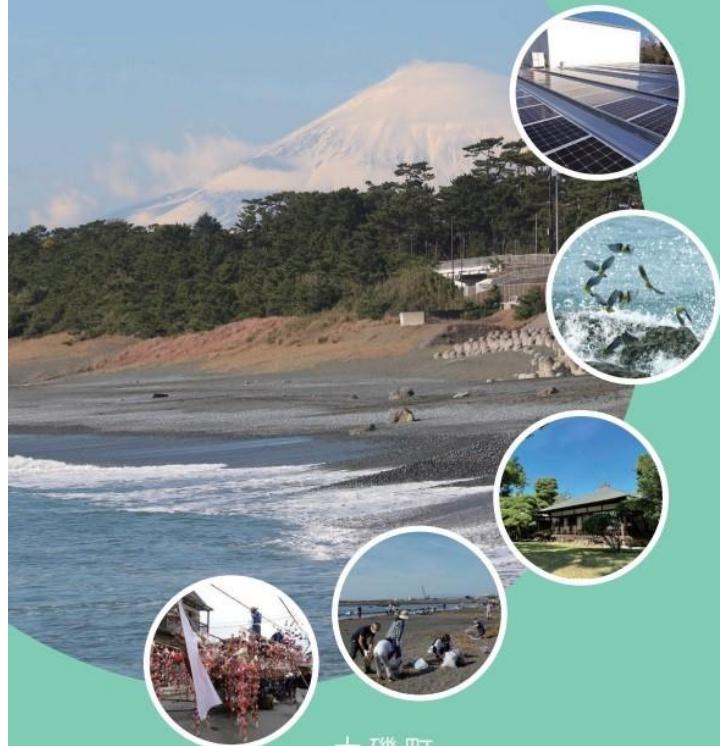
大磯町環境課 磯崎

- 平成12年 **大磯町環境基本条例 制定**
- 平成15年 **大磯町環境基本計画 策定（第1次）**
- 平成25年 **大磯町環境基本計画 策定（第2次）**
- 平成27年 **大磯町省エネルギー及び再生可能エネルギー利用の推進に関する条例 施行**
- 令和 4年 **大磯町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)策定**
- 令和 5年 **大磯町気候非常事態宣言**
 - 2050年までにゼロカーボンシティの実現を目指す
- 令和 6年 **大磯町環境基本計画 策定（第3次）**
 - 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)
 - 生物多様性地域戦略

大磯町環境基本計画 5つの基本目標

大磯

大磯町 環境基本計画



地球温暖化・エネルギー対策

基本目標1

地球にやさしく、
気候変動に備えるまち

自然環境の維持・保全

基本目標2

豊かな自然を大切にし、
多様な生物と共生するまち

生活環境の保全

基本目標3

健康で安心して暮らせる、
美しいまち

循環型社会の構築

基本目標4

ごみを減らし、
資源を大切にするまち

環境教育・学習の推進

基本目標5

環境を守るために、
行動する人をはぐくむまち



基本目標 1・2

大磯

地球温暖化・エネルギー対策

基本目標 1

地球にやさしく、
気候変動に備えるまち

自然環境の維持・保全

基本目標 2

豊かな自然を大切にし、
多様な生物と共生するまち

- ① 省エネルギーの推進
- ② 再生可能エネルギーの推進
- ③ 温室効果ガスの吸収源対策の推進
- ④ 気候変動への適応

地球温暖化対策実行計画
(区域施策編)の
主要施策

- ① 森林・里山の整備・保全
- ② 農地保全の推進
- ③ 水辺保全の推進
- ④ 生物多様性の保全

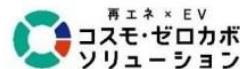
生物多様性地域戦略の
主要施策



メニュー	概要
HEMS(ヘムス)	家庭で使うエネルギーを節約するための管理システム 電気やガスの使用量の見える化や自動制御など
住宅用太陽光発電システム	太陽光パネルで発電した電力を家庭で使える電力に変換するシステム
家庭用燃料電池システム (エネファーム)	都市ガスやLPガスの水素と空気中の酸素を化学反応させ、自宅で電気を生成し、給湯や暖房に活用するシステム
リチウムイオン蓄電システム	電力需要の安定化や停電時の電力供給を目的としたリチウムイオン蓄電池を用いたシステム
電気自動車充給電器 V2H(ビックル・トゥー・ホーム)	電気自動車用の充電設備だけではなく、電気自動車のバッテリーに貯められている電気を自宅へ供給し、自家消費できるシステム



- 令和5年 道路街路灯及び公園照明灯のLED化
- 令和7年 公共17施設に再生可能エネルギー100%電力を導入



令和7年3月24日

大磯町

コスモエネルギーホールディングス株式会社

コスモ石油マーケティング株式会社

大磯町 17 施設に再生可能エネルギー100%電力を導入

～公共施設等における CO₂排出量を約 73%、年間約 1,500 トン削減～

大磯町は、令和7年度に町役場庁舎や小中学校など、17 施設を対象に再生可能エネルギー100%電力（以下「再エネ電力」）を導入します。電力は、一般競争入札で落札したコスモ石油マーケティング株式会社の電力プラン「コスモでんきビジネスグリーン」（※1）により、風力電源等による再エネ FIT 電源に紐づくトラッキング付非化石証書を組み合わせた再エネ電力を導入します。



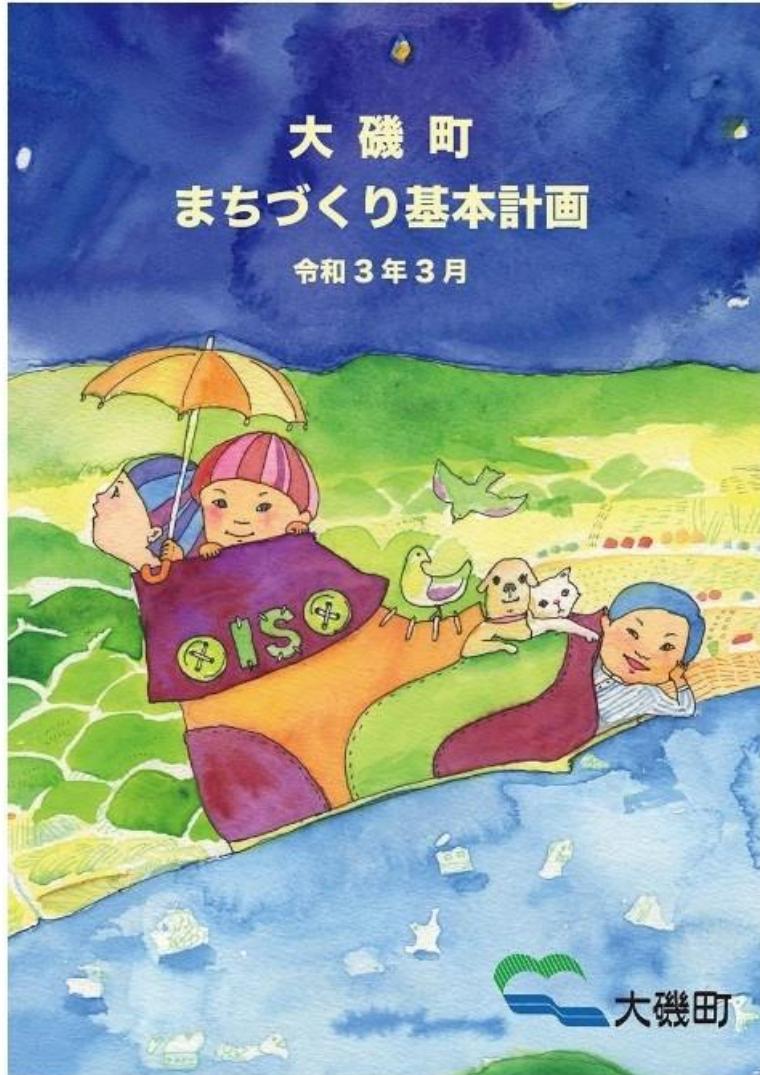
大磯町の地勢

大磯

海あり、山ありの自然環境豊かな大磯町
“町域の約7割が丘陵部”



コミュニティによる水辺と緑地の保全、活用 大磯



令和3年改訂 まちづくり基本計画 (大磯町の土地利用計画)



4. 水とみどりの連携による持続可能な環境づくり（持続する水辺とみどりづくりの方針）

（1）基本方針

水とみどりの連携による持続可能な大磯町の環境づくりを目指すとともに、水とみどりの質的向上、生態系の保全、地球環境への負荷の軽減を以下の基本方針によって目指します。

まちづくりの目標に掲げた【美しい大磯】、【継承し持続する大磯】、【暮らしやすい大磯】、【誰もがコミュニティでつながる大磯】の具現化と達成を目指します。

① 水とみどりの骨格を保全するとともに、市街地における新たなみどりの創出

【美しい大磯】、【誰もがコミュニティでつながる大磯】

地形や水系などの自然の骨格を緑の骨格とし、水とみどりの保全と活用を図ります。

また、市街地においては減少する緑の維持・保全を図るとともに、みどりの活用と新たなみどりの創出を促します。

② 緑の基本計画に位置づけられた施設緑地、地域制緑地の確保

【美しい大磯】、【暮らしやすい大磯】、【誰もがコミュニティでつながる大磯】

緑の基本計画の将来像「広がる海と緑豊かな山が語り合うまち大磯」を踏まえ、持続する水とみどりの実現をめざします。

都市公園や緑地・オープンスペースからなる施設緑地、風致地区や特別緑地保全地区などの地域制緑地の確保を積極的に行い、生活に身近な水とみどりを増やしていきます。

③ 水とみどりのネットワークの形成

【美しい大磯】、【誰もがコミュニティでつながる大磯】

既存の生態系を保全・再生し、生物多様性に配慮した持続可能な環境づくりを行います。これらの生態系や水とみどりからなるネットワークの形成をめざします。

④ 河川や下水道の整備による良好な水辺の環境形成

【美しい大磯】、【暮らしやすい大磯】、【誰もがコミュニティでつながる大磯】

河川環境や水辺に親しむ親水空間の整備を進めます。河川は、治水と河川環境の両機能を有する河道改修により多自然川づくりをめざし、下水道は、計画区域全域を整備し、下水道区域外については、単独処理浄化槽及びみ取り式トイレから合併処理浄化槽への転換を推進し、生活環境の向上と自然環境の保全をめざします。

⑤ コミュニティによる水辺と緑地の保全、活用

【美しい大磯】、【暮らしやすい大磯】、【誰もがコミュニティでつながる大磯】

緑化の推進及び緑の保全、保存樹林や保存樹林の指定などを地域との連携によって進めます。

また、里山の緑の適正な管理と活用に向け、町民と行政が一体となった体制づくりをめざします。

町事業によるきっかけづくり 1

大磯

持続可能な 地域の森の 育て方 【日常入門編】



講習会: 1月21日(土)
高来神社参道脇及び境内の緑地

昨年開催した「ナラ枯れ・松くい被害から見直す持続可能な地域の森の育て方」の「日常入門編」として、「高来神社参道脇及び境内の緑地」を講習場所として、お庭や身近な緑地など、日常の生活の中で行える「土地が自立的に回復していくための土中環境の改善の仕方」を学びます。

■講 師 **高田宏臣氏** (NPO法人地球守代表理事)

■講習会 9時00分～16時00分 (正午～13時お昼休憩)

■持ち物 腰道具 (剣スコップ、剪定ばさみ、手ノコギリ、大きめの貴通マイナスドライバー、
※持参可能な範囲で) 作業しやすい服装、手袋、長靴、昼食、飲み物、雨具など

■【申込方法】事前予約制 (50人) / 参加費無料

①氏名・②年齢・③住所・④電話番号を、電話、FAXまたはEメールにてお送りください。

■【申込期間】1月5日(水)から1月13日(金)まで

※応募者多数の場合は、町在住者、申込順を優先とします。ご了承ください。

※駐車場は台数に限りがあるため、公共交通機関をご利用ください。(生涯学習館には駐車出来ません)

※雨天の場合、中止になる場合があります。



【講師プロフィール】 高田宏臣 (たかだ ひろおみ)

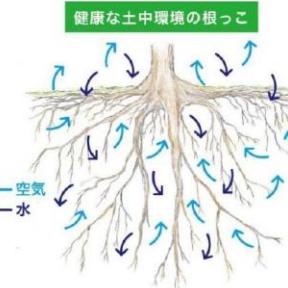
高田造園設計事務所代表。1969年千葉県生まれ。東京農工大学農学部林学科卒業。1997年独立。2003～2005年日本庭園研究会幹事。2007年高田造園設計事務所設立。2016年～2019年NPO法人グーチャサポート理事。2016年～NPO法人地球守代表理事。国内外で造園、土木設計施工、環境再生に従事。土中環境の健全化、水と空気の健全な循環の視点から、住宅地、里山、奥山、保安林等の環境改善と再生の手法を提案、指導。大地の通気透性に配慮した伝統的な暮らしの知恵や土木造作の意義を広めている。行政や民間団体からの依頼で、環境調査、再生計画の提案、講座開催、および技術指導にあたる。主な著書に『土中環境』(建築資料研究社)『これからの雑木の庭』(主婦の友社)、共著に『地球守の自然読本シリーズ』、他。

問合せ/申込み: 大磯町 都市建設部 都市計画課 都市計画係
Tel: 0463-61-4100(内線239) Fax: 0463-61-1991
Email: ogubo-toshikeikaku@town.oiso.kanagawa.jp

土中環境とは?

環境を「土の中まで含めて環境」として捉える見方です。
土中の水と空気の動きという視点から、山・川・海・大地・樹木の環境劣化の原因を探っていきます。

健康な土中では空気と水がよく動き、微生物や菌糸の発達が旺盛で空気と水の循環を助けます。



不健康な土中環境の根っこ



土中が詰まつた硬化した場所では、乾燥し、根は浅く根上がります。
【このような場所で起きやすい事】
倒木/土砂崩れ/地滑り/藪化





町事業によるきっかけづくり 2

大磯



自伐型林業講習会の実施

環境土木の手法による農道整備



住民主体の取り組み

大磯



薪屋大磯

「いいね！」146件・フォロワー182人

投稿 基本データ リール 写真 動画

自己紹介

～里山から木の温もりを～ 里山を整備してその木材を薪や木工品に活用することで、多くの方に山や木に親しんでもらえるよう活動しています。 正式団体名：里山をきれいにする会す もあ

薪屋大磯
5月18日

大磯の山にはどんぐりになる木がたくさんあります。秋にどんぐりを拾って育てた苗を、大雨で崩れた斜面を修復しながら植えました。生まれた山だからか、元気に育っています。鮭が生まれた川に戻ってきた感じ？

薪屋大磯（里山をきれいにする会す もあ） 自伐型林業



大磯古道山道つなげ隊
途切れた古道・山道の再生、整備



谷戸川渓谷をきれいにする会

「いいね！」297件・フォロワー342人

投稿 基本データ 写真 動画

自己紹介

ページ・コミュニティ
yatogawasaisei@gmail.com
yatogawasaisei.jimdofree.com
まだ評価はありません(レビュー0件)



谷戸川渓谷をきれいにする会

2日

本日(6/21)は梅雨時とは思えない晴天の下、メンバー3名で堰堤脇の傾斜地を整備してカエデの苗を植えました。作業場所は日が陰ついて、風も通るので思いのほか快適。サンコウチョウもいい声で鳴いていました。今回植えた苗は5年ほど前に谷戸川沿いでTさんが採集し、家の庭で丹念に育てたもの。傾斜地は砂利があつたり竹の根があつたりで環境はあまり良くありませんが、ぜひ根付いてきれいな紅葉を見せてもらいたいものです。

谷戸川渓谷をきれいにする会 谷戸川の清掃活動



台町住民有志の会
鳥獣対策の草刈り、里山の再生



住民主体の刈り払いなどを呼び
けた3人。左から小野一恵さん
大西寛美さん、石原和子さん



住宅の近くの耕作放棄地で、生い茂った草を刈る住民ら=大磯町の台町地区

大磯の住宅地、ワナ駆除は効果なし

車を引いてきた。運転手の羽田が、運転手の羽田を見つけ、腰にじるる象の園を楽しむながらのセカンドライフを思い描いていた。

ところが、住んでみると、一番は「イノシシ天国」だった。裏山から入ったイノシシが庭を掘り起こしたり、生活道路を横切ったり。中には自転車に乗っていると並走されたという住民もいた。めいめい庭に柵をつけたり、唐辛子シートを

2025年(令和7年)2月17日(月)

鉢やワナによそ一瞬階上

どでイノシシを駆逐することによ

る地区が大磯町にある。立役者た

ず、自ら行動した3人の住民た

「みなさん、頑張りす

きないで、疲れたらどん

どん休んでくださいね」

1月下旬の土曜日、大

磯のランドマーク高麗山

のふもとの広場に、剪定

バサミや草刈り機などを

持った作業着姿の40人は

どが集まっていた。親子

連れや高校生もいる輪の

中心で、作業手順などを

決めて説明するのと、近

は効果なし

繰り返し苦情を入れる大西さんは、勉強会に参加していた石原和子さん（73歳）、小野一恵さん（73歳）、「(8)と3人で呼びかけ人となり、住民主体でイノシシの痕跡がある耕作放棄地などの刈り払いを始めた」。講師を務めた井上雅央さん（元近畿中国四国農業研究センター鳥獣研究室）は、「イノシシ出没の理由について「エサと隠れる場所があるから」と解説。手入れされなくなり、地盤が陥没されず、残る果樹の実や農作物が好みの工サになり、生い茂る草などが安心できる「藩籬場」になつて、イノシシが住宅地に出てきている構造を指摘した。

この10年、年に数回ペースの刈り払いを実行し、た結果、住民の生活圏で

台町地区に設置されたセンサーカメラが撮影したイノシシ=大磯高校生物同好会提供

エサ・潜み場なくすため耕作放棄地を刈り払い

町職員の弘重さんは、「まあか、こんなふうに
なるとは」感慨深げだ。住民が行政や隣友
会、農家組みの発展を昭し、この輪が広がり、地域が
活性化しつつある。

「いつか大西さんたち
と、「あのとき出てきて
くれたおかげで地域が良
くなつた」と、イソシング
に感謝する日が来ればと
思ひます」(尾澤)

今年1月には町と大蔵高、獣医学部などで知られる麻布大学（相模原市）とが連携協定を締結。3月には高校生たちが鳥獣害対策の先進地として知られ、同大の実習

令和7年2月17日（月）朝日新聞湘南版（朝刊）

住民主体の取り組みへの支援

大磯

特集

みんなでつくる

【環境月間】人と自然が共生するまち おおいそ

6月5日は「環境の日（世界環境デー）」、6月は環境月間です！

毎年6月5日は、1972年6月5日からストックホルムで開かれた「国連人間環境会議」を記念し、「環境の日（世界環境デー）」とされています。そして、この日を含む6月の1ヶ月間は、国民の環境の保全に関する理解を深める「環境月間」となっています。

大磯町は面積の約7割を丘陵部が占める自然環境豊かな町です。

町民一人ひとりが取り組むことができる自然環境を守る活動はたくさんあります。

みんなでつくる 人と自然が共生するまち おおいそを実現しよう！



町内の自然環境を守る活動を支援する2つの取組みを始めます！

① 森林・樹木・里山アドバイザーを派遣します！

大磯町の絶対的な自然環境は、ほどよく人の手が入ることによって保たれてきた里山で形成されてきました。しかし近年、人の手が入らなくなってきたことにより、荒れた森林や緑地が増加しています。

荒れた森林や緑地では、土砂崩れ・倒木・害獣被害等の地域課題が増え、身近にあるにも関わらず、近寄り難い場所になっています。

また、森林や緑地に対する「正しい知識」がないため、過剰な樹木の伐採をしてしまったり、また逆に、過剰な保育意識により適切な利用や管理を妨げてしまっていたりと、所有者や行政にとっても「どのような維持管理がほしいか」判断が難しい状況が生まれており、森林や緑地等の里山環境の維持管理に関する周辺住民とのトラブルが発生しています。

そのような目の前の課題を解決するものとして、「正しい知識に基づく、より優れた森林・樹木・里山整備」を目的に、森林・樹木・里山の保全、再生に知見のあるアドバイザーを派遣します！

▶対象とする内容：自然環境の環境管理全般

◀例>

森林管理：森林の伐採、土砂崩れ防止や倒木の処理、山道の整備など

樹木管理：公園や緑地の樹木の維持管理など

里山管理：里山の整備、農地の土砂崩れ防止、ため池の維持管理など

▶アドバイザーの業務

「相談」業務 → 「現場に対する意見提出」

森林や緑地等の維持管理で困っている現場を調査し、問題解決に向けた方策などの助言・提案を行います。

※対象者：町内で森林や緑地等を所有する個人、団体及び法人

「活動支援」業務 → 「講習会及び現場実習の実施」

実施している森林や緑地等に関する活動に対して、講習会や現場実習を行い、活動者の知識や技術のスキルアップに努めます。

※対象者：町内の森林や緑地等の適切な利用や管理に寄与し、5人以上が参加する活動

相談内容に応じて町から
アドバイザーを
派遣します。
まずはお気軽に
ご相談ください！



② 小型木材粉碎機を無料で貸し出します！

受付開始：7月～

町内の荒れた森林や緑地等の整備や、伐採した樹木を粉碎・チップ化し、堆肥や土壤改良材として有効活用することを目的に、「小型木材粉碎機」を無料で貸し出します！

▶機材の仕様（予定）

機材：自走型小型木材粉碎機
粉碎能力：枝の直径9cmまで
処理能力：1.7m³/h
使用燃料：自動車用無鉛ガソリン



小型木材粉碎機（※イメージ）

▶貸出対象

町民、町内活動団体、森林等の所有者及び管理者

▶貸出及び返却

●貸出期間は最大10日間（※延長可）

●機材の貸出・返却は美化センター内倉庫で直接引渡し。

※初めて機材を借りる場合は、職員による取扱い説明を必ず受けること。

（※前回借受をした時から6ヶ月以上経過している場合も同様）

※機材の借受・返却は「連絡ブリッジ」を利用して、軽トラック等で運搬し、
借受者が自身が行う。

●借受期間中は、機材を作業現場に放置しない。

●使用後は必ず機材を清掃し、燃料タンクを満タンにして返却。

●運搬・保管等に要する費用は借受者の負担。

詳細は7月以降、
町ホームページは
チラシで
ご案内するベネー



住民による自然環境を守る取組み

湘南平の麓にある善兵衛池。この周辺は昔はきれいな里山の風景が広がっていました。

大磯町の丘陵部は、昔からほどよく人の手が入った里山で形成されてきましたが、しかし、今では手入れのされなくなった森林や田畠などが増加し、きれいな里山の風景が減少しています。

人の手の入らなくなった森林や田畠が増加すると、収穫されずに残る果実や農作物がイノシシ等の野生動物の餌のエサ場になります。また、警戒心の強いとても臆病な動物のイノシシは、体を隠すことが出来る「草むら」があると、そこを「潜み場」として、どんどん活動エリアを広げていきます。

人の手が入らなくなった環境が増えるにつれ、本来は、住宅地から離れた森林や山の中で生息していたはずのイノシシ等の野生動物が、人が住む住宅エリアにも出没するようになり、善兵衛池周辺の住宅地にも出没するようになりました。

そんな目の前で起こっている状況を改善しようと、住民自らが対策に乗り出した地域が東大磯の台町地区です。

善兵衛池周辺に住む3人の住民が発起人となり、住民主体でイノシシの痕跡がある耕作放棄地などの「草むら」の刈り払いを始めました。

年に2回程の刈り払いを約10年続けた結果、イノシシの生活圏での目撃情報やワナでの捕獲数は激減してきました。

また、10年の活動の間に、活動に参加する人も増え、地域の活動の輪が広がっています。

地域課題を解決するための「3人の想い」から始まった活動が、イノシシ対策という元々の目的だけではなく、「美しい里山の再生」や「地域コミュニティの活性化」など、地域課題をきっかけとして「新たな地域づくり」を生み出しています。

このように住民自らが地域課題を解決していく取組みを、大磯町では積極的に支援していきたいと考えています。

「みんなでつくる 人と自然が共生するまち おおいそ」

住民一人ひとりの「想い」で実現していきたいですね。



▲台町住民の刈払いに大磯高校生等も参加しました



▲善兵衛池周辺を刈払いする台町住民の皆さん



台町地区的取組みが
メディアに取り上げられました

令和7年2月 朝日新聞

令和7年4月 NHK「首都圏ネットワーク」

令和7年4月 NHKラジオ



増えていく地域課題

自分ごと化 / つながり



自分達ごと化

(地域課題の解決 / 地域の魅力の創出)



私たちの暮らしのものを
どう育てていくか